

巻 頭 言

聖泉大学 学長

小 山 敦 代



聖泉大学看護学部の学術雑誌「聖泉看護学研究 Seisen Journal of Nursing Studies」は、2011（平成23）年度の看護学部開設と同時の創刊から8年目を迎え、このたび Vol.8 の発刊ができますことを大変嬉しく思います。これもひとえに、前筒井裕子学長ならびに初代編集委員長の前石田英實教授をはじめ、これまでの編集委員・教員達の熱意と地道な努力の賜物であります。

私は、大学院看護学研究科と別科助産専攻開設の2015（平成27）年度から本学にご縁をいただき、2018（平成30）年度からは学長職を拝命し重責を感じながら教職員と共に大学の使命を果たすべく精進の日々でございます。

「聖泉看護学研究」Vol.1～7に目を通しますと、創刊時から本雑誌が単なる紀要でなく外部の査読をいただく学術雑誌とすること、キャリアアップセンターの活動と併せて、研究成果を看護・教育実践に活かして質を高め、世に貢献するという凛とした姿勢がにじみ出ています。内容的には、まだ学術論文としての原著が少なく、研究ノート、実践報告、資料が多い状況ですが、教員の更なる努力と大学院生・修了生の投稿も増えてくれば、量・質ともに充実・発展を期待するところです。

看護系の大学は、2018（平成30）年度には265校278課程となり、約30年の間に25倍に増えました。そして、看護学教育の質を保証するために日本看護学教育評価機構も設立されました。今後、看護を提供する場はますます広がり、多様な健康課題に対応できる実践リーダーや教育の質の向上に資する看護職育成は大きな課題であります。聖泉大学が地域で持続的な看護サービスを提供する人材育成の教育・研究機関として定着するためには、なんといっても教員の教育・研究能力が求められます。専門学術雑誌への投稿はもとより、身近な「聖泉看護学研究」への投稿を通して相互に研鑽してまいりましょう！

さらに質を高め、学術論文発表の場として充実していくよう努めてまいります。今後ともご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

